

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100295		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム 富士見苑		
所在地	千葉県富津市篠部2310-3		
自己評価作成日	平成21年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成21年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

右手に富士山、左手に東京湾観音、海まで徒歩3分という抜群のロケーションを活用し、散歩の援助やミニドライブを実施するなど自然を活用した取り組みを行なっている。敷地内に農場を有しているので季節の野菜など利用者自らが栽培し収穫の喜びを味わっている。施設内の清掃作業を毎日利用者が自主的に行なっているため、常に清潔が保たれており、匂いも無く、爽やかな環境を提供できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当苑は東京湾を臨む高台に建つ全面バリアフリーの木造平屋造りであり、天窓から差し込む光が明るい左右対称の開放的な2ユニットグループホームである。当苑の近隣は緑が多く、晴れた日には左手に東京湾観音、右手に富士山を眺望できる風光明媚な環境のなかにある。広い敷地内には各種行事等で利用されるデイサービスセンターもある。このような恵まれた環境の中で、苑の方針である「安心」・「安全」・「穏やかを」形にすべく、利用者一人一人のニーズに適った「心」のサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心、安全、穏やか」をモットーとして利用者が第2の人生の拠り所として地域と共に日常生活を送れるように、心こもったサービスの提供に努めている。	開放的な住環境の中で利用者が、安心で、安全で、穏やかな生活を送れるように、日々サービスの提供に努めている。また、関係者が理念を共有するため法人の理事長が定期的に来苑し職員と話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会に加入し、地域の奉仕活動にも積極的に参加している。施設行事にも定期的に招待し、地元ボランティアの受入も積極的に行なっている。	ゴミ拾い、廃品回収などの行事に積極的に参加するとともに、苑が開催する健康セミナー、カラオケ、食事会、いも煮会等に地域住民が参加し、双方に信頼感が醸成されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅サービス利用者のご家族等の相談に対し、親切丁寧に対応し、サービス事業者に橋渡しすると共に、認知症についての相談・援助を恒常的に行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に市職員や地区役員、利用者家族を招待し、広報誌や活動報告を行なっている。外部評価の結果についても公表し、更なる理解を求めている。	運営推進会議は市職員や地区役員、利用者家族、苑職員等をメンバーとして5月と10月に開催している。会議では写真を主とした手作りの広報誌を配布し、活動報告を行うとともに、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は富津市介護保険運営協議会の委員でもあり、定期的に意見交換ができています。介護福祉課や生活保護課等とも連携を密にしており、各種問題発生時には早期解決に向け、対応している。	管理者は富津市介護保険運営協議会に参加し、双方の課題について定期的に意見交換を行う機会を持っている。また、介護福祉課や生活保護課等とも連携し、問題発生時には早期解決に向け、対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は皆無であり職員研修等で、類似行為の説明を行なっており、精神薬等の減少にも努力している。言葉についても適正な使用ができています。	苑の明るく開放的な雰囲気逆行することがないよう、職員研修及び会議で身体拘束またはその類似行為については詳しく説明し、それらを排除するとともに精神薬の減少にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修等で繰り返し説明しており、虐待は皆無である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の施設内研修で職員一人一人に千葉県が作成したリーフレットを取り寄せ、配布するなど、積極的に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の難解述語は解りやすく平易な表現で説明し、疑問に思うであろう点については説明者側から問いかける等不安の除去に努めており、インフォームドコンセントの精神で対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時や電話にて利用者の生活状況の報告を行なっている。特に変化があった際は、その都度、連絡している。広報誌「すこやか」を発行しており、写真を掲載することにより、元気で明るい生活を送っている事が理解できる。	運営推進会議や家族の面会時に要望や意見を訊いている。意見や要望があれば会議で検討し、周知を図る体制は整っているが、現状では感謝の言葉が多く意見や要望は殆どない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループ及び全体での会議を毎月開催しており、可及的速やかに対応している。ミニカンファレンスを随時実施しており意思の疎通が図られている。	ユニットごとの職員会議及び全体の職員会議を毎月開催し、職員の意見やアイデアを全員で検討するとともにその結果をサービス提供に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価表を提出させ、管理者面接を行い、就業における諸問題の解決に取り組んでおり、労働環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修はもちろんのこと、OJTにも積極的に取り組んでいる。施設外研修を受講した職員は研修報告を発表し、職員全体のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設とも毎月会議等で交流を持ち、情報交換を行なっている。また、地域とのネットワーク作りにも積極的に参加するとともに、他施設の行事等にも参加し、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接において病歴、生活歴、喪失体験等を聴取し、本人の理解を深めて、家族同様のケアができるように努力して不安解消に努めている。生活移行期は特に精神的なケアを重視している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安な気持ちを察し、言い難い事柄などは相手の言動から推察する。穏当な質問応答から潜在化している真のニーズをインテイクできるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活移行期は環境変化に起因する不安の除去に努め、安心して新しい生活に慣れていただけるよう、当施設の持つあらゆるツールを活用し援助する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に、職員も施設での共同生活を営む一員であり、家族と同様な関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と共に、利用者の満足度向上に努め、意思の疎通を図り、真心で接するよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れた家具の持込みを奨励しており、新しい生活空間に違和感の生じないような工夫をしている。更に、親族等の面会も施設側から積極的にお願いしている。	部屋には使い慣れた家具の持込みを奨励して生活空間に違和感が生じないようにしている。また、家族にも自室での面会をお願いしている。その他レクリエーションでなじみの場所を散策する等の配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を送る上で必要なマナーやルールを守りながら、作業等を通じて助け合いの精神を醸成するなど、和の育成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一期一会を大切に信頼関係の継続的な維持に努め日常業務に活用している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での意思表示などから真のニーズを見極め、利用者満足を中心に掛けており、利用者本人の主体性の確立に努めている。	言葉にできない欲求、表現とは裏腹な脅え、眼差しによる訴えを感じ取れるよう努力したいという。その人の言動の背景を受けとめながら一体化の空間を培い、安心して暮らして頂くよう努力中とのこと。個別に向かい合う惜しみない努力を感じる。	サービス側の優れた個性は数値や記録になりにくい。しかしグループホームならではのサービスの質維持への努力・熱意が組織内でも評価を受け、夜勤体制などの増強につながるよう、期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等、個人情報収集の際に生まれてから現在まで、知り得るあらゆる情報を入手する事により、人生のポイントを見極めてケアプラン作成をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事、して欲しい事、して欲しくない事の把握に努め、その人らしい生活が確立できるよう援助する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当や御家族と協議しながら、現段階で最良の計画を作成すると共に、利用者の変化に伴い、最良のタイミングを逃さず、プランを改善している。	利用者調査における介護計画説明の家族の満足度は93%、総合的満足度と同様の結果である。またケアプランの家族との共有が具体的に記され制度と事業所への信頼が見える。ケアプラン見直しの前提となる評価も具体的に記述されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や処遇事例を参考に最良のケアプランを更新しながら、職員が臨機応変に対応できている。必要に応じて目標設定を変更し、最新の情報に基づいた計画を策定している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会資源を活用すると共に、併設のデイサービス事業所や、近隣の事業所とも積極的に交流して小規模多機能的な介護を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の諸行事に積極的に参加することで地元との交流を深め、日常的に良好な協力関係が築ける様に援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は入居後も奨励している。特にかかりつけが無い利用者は施設の協力医に往診をお願いしている。	日常的に信頼関係ができており、利用者の安心感も強いとのこと。デイサービスでの認定調査にも対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスセンターの看護師と連携を密にしており、必要に応じて報告・連絡・相談を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の中核医療機関と常に良好な関係が保たれており、入院や退院に関して相談に応じてくれている。訪問看護師との連携も引き続き良好に取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては入院床を有する地域の医療機関及び協力医との連携は良好であり、本人・ご家族との事前の話し合いも不安を抱かせないように配慮している。	地域の病院との良好な関係が利用者・介護者の安心に結びついている。事業所の日常的な努力が病院との信頼関係を保持している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応要領等のマニュアルを使用した施設内研修を複数回実施しており、最近ではAEDを配置したので取り扱い要領の研修も行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防との合同防災訓練を実施したり、定期的な避難訓練や消火訓練等を行なっている。更に地元消防団とも良好な関係を築いている。	特に協定書などの取交は無いが、厚い協力関係があるとのこと。緊急の場合にはどこの病院を選んだらよいか、搬送中にも探してくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや挨拶など、礼儀の基本を施設内研修で行なっている。介護職の言葉使いチェックリストという冊子も活用し、利用者の尊厳確保に取り組んでいる。	利用者の尊厳を破壊する言葉による虐待の事例を提示し、繰り返し介護職の言葉使いのチェックとともに利用者の尊厳維持を意識的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の寄り添いの中で、会話しやすい環境を整えると共に、心の内側を斟酌できるように接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者満足を最優先とし、個別のケアプランにのっとり、その人らしい生活ができるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季折々に御家族の協力を頂きながら、衣替えを実施すると共に、化粧品など自由に購入できる体制をとっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の加工やおやつ作成など、利用者の参加を奨励している。食事の準備や後片付け、洗い物などできる事はして頂いており、自分が役に立つ人間であることを実感して頂いている。	管理栄養士によるものと嗜好調査による献立で栄養摂取支援をしている。食事後には利用者が率先して後片付けをされるとのこと。特におやつは手作りが多いとの家族からの感謝のコメントがある。	利用者にとって何より楽しみの食事が美味しいと共用空間などが賑やかに感じられる。残存機能維持のため、介護とともに食に関する努力も継続されるよう期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査に基づき、献立を作成すると共に、毎日の食事摂取量のチェックを行い、臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔チェックを実施し、歯磨きやうがいを奨励し、口腔清潔の維持に努めている。夜間は入れ歯洗浄剤を使用し、口臭予防にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別のケアプランにおいて排泄の残存機能維持に努める他、食後のトイレ誘導を行なう事によりオムツを汚さない取り組みを行っている。	排泄の自立は残存機能維持に大切だとして介護職の努力が注がれている。排泄習慣化を掴む食後のトイレ誘導で利用者さんを勇気づけ、結果がケアプランの評価欄につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に基づいて数日間便通の無い利用者には繊維質の多いバナナや牛乳を飲んでいただくようにしている。5日間以上の便秘の際には、頓服として処方された下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂が好きな利用者にはなるべく毎日、それ以外の方々も清潔が維持できるようマン・ツー・マンの入浴介助を心がけており、入浴時間もゆったり取っている。	大手企業の社員寮であったため、浴槽は瀟洒で循環装置も大きく清潔な浴室の雰囲気からか風呂ファンもいるとのこと。「日に何回、貰えるかダヨ」という利用者さんの合言葉に介護職の汗と努力を感じる。洗濯物の増量が心配ではある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、離床は本人の意思に基づいており、休養したいときは自室で静養できる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートを作成しており、ケアプランにも記載されている。職員全員が個人の服薬状況を把握しているので利用者の質問にも対応できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活を通じて個々の役割があり、レクリエーションの際も各々の残存機能に応じて張り合いが感じられるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出は基本的に自由。毎月の行事計画の中でドライブなどは利用者の希望に応じている。御家族の協力により、毎日のように散歩に出かける方もいる。更に、初詣や墓参りなど季節を感じられる外出を心がけている。	利用者さんや家族の気持ちに沿う介護理念を感じる。日誌にも利用者さん個々の行動が記され、家族に開示され、介護職にも共有されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の同意を得て、本人管理のお財布を所持している利用者もいる。預り金を運用して全ての利用者が自由に買い物をできる体制をとっている。日々の買い物にも同行し、買い物を楽しみにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケースファイルに関係者連絡先が記載しており、希望するときに希望する人に連絡が取れるような体制をとっている。季節に応じて封書や葉書のやりとり行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールや壁を利用しながら、季節の飾り、行事のスナップ写真等を掲出している。作業療法の一環として利用者自らの作品を季節のレイアウトにしている。	食堂の一隅は小上がりに囲まれた畳と炬燵の広めの空間がしつらえられている。昼食も整列しての食事と違い、利用者さんそれぞれ好きな空間で摂っておられる。見守りは大変でも、個々の利用者さんの大切な「食事空間」が守られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールに隣接して畳部屋があり、自由に利用できる。座席は利用者の体調に応じ固定化せず、臨機応変に対応できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始前の見学において馴染みの家具の使用や、入所前の居住空間を聴取し、できるだけ違和感の生じないような配置にできるように努力をしている。	昼食時の各個室を見て、それぞれ個性に合った暮らしがわかる。ベッドや家具の置き方など、好みに合わせ暮らしている様子がわかる。質の高い支援によって、大事にされている利用者さんの様子が覗かれた。	グループホームの良さが個室でもにじんでいる。この維持と発展を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分においても個人の身体清潔に関する部分は個別化されており、自分自身で取り出し収納を行なっている。職員にも自立支援の重要性を施設内研修等で理解を深めさせている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的
1	13	職員の資格取得状況が低調であり知識・技術の向上が期待される。	介護福祉士資格や介護支援専門員資格の取得にむけ努力する。	施設内研修の充実や外部に 加する体制作りに取り組む。
2	23	入浴・食事・排泄などの介護がワンパターン化している。	個別のケアプランに基づいて一人一人のニーズを把握する。	更なるケアプランの理解や での理解を深める。
3				
4				
5				

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()